

コンテンポラリーな
そして個人的な彼。

Wolfgang Tillmans

ヴォルフガング・ティルマンス

10月から、日本で初めてティルマンス個展が開催されて人気を呼んでいる。ニューオープンの中沢21世紀美術館の開館記念展示でもこの人の写真が今展覧されている。1968年ドイツ生まれ、今はロンドンに住んでいるという。'90年代からの写真界で“ポストモダン”のスター的存在。新しい、とか、モダンということがどういう意味なのか、考え始めると難しいが、確かにこの人の写真はモダンな感覚に溢れている。'80年代から活躍し始めて、最初はファッション写真を撮っていたという。今は自己表現としての写真に専念しているのだろうか。ひんやりと冷たくてアナーキー、凄く主観的で、見る人を突き放す写真。なので見始めると惹きこまれる。

(個展は東京オペラシティ・アートギャラリーで12月26日まで。中沢21世紀美術館の展示は3月21日まで)



Wolfgang Tillmans

2004年刊。多様な写真を一度に大量に見られる。熱く激しい写真も、暖かい写真も。脱ぎ捨てられたGパン、マンホールに駆け込むネズミ、美しい空や海も、この世にある現実の何でもが彼の芸術の素材だ。(TASCHEN JAPAN ¥3,045)

